

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2070300401		
法人名	医療法人健救会		
事業所名	医療法人健救会 グループホーム北大手		
所在地	上田市中央西1-2-10 (電話) 0268-21-6066		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年4月15日

## 【情報提供票より】(平成20年 3月 4日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 8人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	～	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(50,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円) 無		有の場合 償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,200 円

## (4) 利用者の概要(平成20年 3月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 9 名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	5	要介護4	0
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 89.11 歳	最低 77 歳	最高 101 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人関歯科医院	・医療法人健救会柳澤病院
---------	------------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上田市の中心を横切る国道18号から上田城址公園に向かって少し入ったところに法人の病院に抱かれるように当ホームがある。緊急時や受傷時には併設病院の医師の診察治療が24時間可能であり入居者も職員も安心して生活出来ている。大勢の人と接したり、四季を感じてもらうため車での外出を積極的に取り入れている。近くの小学校の子供たちやボランティア等の訪問が定期的であり、入居者が地域の行事に出掛けるなど交流の輪が年々拡大してきている。入居者が住みなれた地域で最後まで自分らしく暮らし続けられることを支える、地域密着型サービス本来の役割がますます期待できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善事項に関しては職員会で協議し改善に取り組んだ。入居者の生活歴は改めて家族などに書き込み式でお願いした。その結果、入居時の聞き取りより更に沢山の情報を得ることができ、入居者の生活を考察していくための貴重な資料となった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は今回で3回目となる。3グループに分かれて項目ごと分担して評価を行ってから職員会で話し合い作成している。評価項目が変わったこともあって数日間話し合いをしている。話し合いを繰り返すことで日々のケアの見直しや振り返りができ、職員の意思統一につながることができている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごと定期的に開催し、ホームの活動や行事予定、事故や入居者の状況など詳細に報告している。意見交換では介護保険料、国民健康保険料等の質問があり、七夕飾り見学で外出したが道路の段差が多くてこのままでは来年の参加は考えたいなど率直な意見が出ている。課題をその都度協議したり、専門分野の委員がコメントするなど有意義な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの様子は毎月発行の北大手通信で家族等に報告している。この通信には「〇〇さん近況報告欄」があり、一人ひとりの様子を書き込めるように工夫されている。ご意見箱は設置しているがほとんど活用されることがないので家族と話す機会を大切にし何でも気軽に言ってもらえるように働きかけている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会のふれあい広場、どんど焼きなどに参加したり、また近くの小学校へ音楽会や運動会などを見に出かけている。小学校全児童がアルミ缶回収で購入した車椅子をホームに贈っているほか、小学4年から6年生15名位で構成しているボランティア委員会が定期的に訪問している。一般の園芸ボランティアの訪問もあり幅広い交流が行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心と尊厳のある生活を営むことが出来るよう支援する等、開設時の理念を継続している。	○	入居者が住みなれた地域で最後まで自分らしく暮らし続けられることを支えるサービスとして地域密着型サービスが始まりました。今の理念に加え地域密着型サービスとしての役割も更に加えるよう検討されたら良いのではないだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議では日々のケアを振り返り、理念に基づいているのか話し合っている。職員は理念を日常的に意識しながら取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事(ふれあい広場、どんど焼きなど)に参加している。また、近くの小学校へ音楽会や運動会などを見に出かけている。小学4年から6年生15名位で構成されているボランティア委員会がホームを訪問し演劇やハンドベルの演奏などを披露しており、入居者は毎回とても楽しみにしている。園芸ボランティアの訪問もあり、地域との交流は多い。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は分担して行った後、全職員で協議し作成している。評価を通して、意識あわせや業務の見直し、日々のケアの振り返り等が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごと定期的開催している。活動や行事予定を報告している。意見交換では介護保険料、国民健康保険料の質問や七夕飾り見学で外出したが道路の段差が多く大変だったと報告があった。対応について市職員から「自治会より要望を上げて欲しい」とコメントがあるなど有意義な会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明なことなどがあれば市高齢者介護課の担当者に相談している。上田市主催で行われた地域密着型サービスの集団指導に参加している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの様子は毎月発行の大手門通信で報告している。この通信には「○○さん近況報告欄」があり、一人ひとりの様子を書き込み知らせている。急ぐ時は電話で連絡している。遠方のため面会が難しい家族には写真を同封している。出納帳や介護計画などに関しては家族が来所したときに確認のサインを頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は設置しているがほとんど活用されていない。家族と話す機会があれば何でも気軽に言ってもらえるように働きかけている。出された要望や苦情等は全職員で検討し改善に努めるなど質の向上に活かす取り組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による継続的な支援を心がけている。止むを得ず職員が代わる時は入居者にきちんと紹介している。また、家族にはホーム通信で報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上を図るため研修に積極的に参加することを奨励している。職員は交代で研修や学習会に参加している。外部研修参加後は全職員が共有できるように職員会議で発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者は市内に10カ所あり、更に、2ヶ所が開設される予定である。連絡会はあるが参加していない。連絡会から研修会の情報があれば職員に知らせている。	○	サービスの質の向上や職員教育のために同業者との交流や連携を前向きに検討されることを望みます。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問面接後、ホームを見学、またはお試し期間後から利用を開始している。納得して利用を開始したが、「ヤッパリ自宅がいい」と戻られた入居者については法人の居宅介護事業所と連携をとり、在宅での生活を再開できている。また施設から移られた入居者に関しては職員の配慮で徐々に馴染むことが出来たと伺った。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に生活しながら“しきたり”や昔からの工夫、知恵を教えてもらっている。戦争話や昔の遊び、地域の昔の様子など散歩時やおしゃべりの時によく教えてもらうが勉強になっていると伺った。食事の準備は一緒に行っているが、お互いに労をねぎらい、感謝の言葉を交わしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに声をかけて希望や意向を確認している。コミュニケーションを大切にしながら言いやすい雰囲気作りや何でも言ってもらえる関係作りに努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の心身や意向など一人ひとりの状況を踏まえて介護計画作成者が原案を作成後、皆で話し合い介護計画を完成させている。介護計画は家族等に説明し確認印を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごと見直しを行っているが入居者に変化があったときや家族の要望などが変わったときは見直しを行い介護計画を作り直している。	○	介護計画の遂行状況や入居者の状態確認などのために毎月見直しすることを望みます。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関受診や希望に応じ、買い物など家族に代わり付き添っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が遠方などの場合は家族と相談したうえで変更している。病気や負傷した場合は入居者の主治医または協力医療機関で必要な治療が受けられる。健康上の緊急時には消防署や適切な医療機関と連携をとり、救急医療、緊急入院等が受けられるような体制が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については指針があり家族に説明している。病状や状態が変わったときには家族、医師、職員と話し合っている。往診以外にも毎週訪問看護師が訪問し健康管理している。状態にもよるが、入院を納得できない入居者にはホームで治療が受けられるように、出来る範囲で支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりにあった声がけをしながら、プライドやプライバシーを損ねない対応を実践している。個人情報保護法の理解に関しては法人による教育が一貫して行われ、秘密保持の周知徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはおおまかに決まっているが入居者の希望や体調、天候などで柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に出掛けて食材を選んだり、野菜を切ったり、盛付けるなど和気藹々楽しみながら皆で食事の準備をし、片付けも協力して行っている。献立は法人の管理栄養士が立てているが入居者の好物や旬の食材を使った料理を組み込んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が入りたい時に入浴できるようにしている。嫌がる入居者もいるがタイミングをみて声がけをしたり翌日に延ばすことで気分よく入浴できている。日曜日を除く毎日入浴できる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯物たたみなど出来る所で力を発揮してもらっている。地形に興味のある入居者に誘われて外に出かけたこともある。入居者が何が得意か、何ができるのかを職員は把握しており、入居者の生きがいにつながるよう適時場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出を日常的に取り入れ気分転換できるように心がけている。入居者の外出には小学生から贈られた車椅子で出掛けている。寄贈された車椅子は小学校の子供たちがアルミ缶回収で購入したものだという。		
<b>で</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な禁止行為、またその行為を受けることの弊害について職員は理解し認識している。玄関ドアはロック式なので外出したい入居者にはドアの開閉を手伝い一緒に出掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に年2回併設施設と合同で消火訓練、救出訓練その他必要な訓練を行っている。また設備点検も同時に行っている。またホーム単独で防災訓練を年一回入居者も参加して行っている。職員は避難経路を熟知しており、消火器の扱い方も熟練している。運営推進会議でも災害時の協力をお願いしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量を確認している。摂取量が少ない場合は食間に軽食を出すこともある。献立を定期的に併設病院の管理栄養士に見てもらいアドバイスなどを受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花が飾られ、また雛飾りなど年中行事の飾り物を置くなどして季節感を感じてもらっている。居間兼食堂には大きなガラス戸があり、その場から歩く人や走る車を見ながら食事やお茶を飲んでいる。レストランにいるかのような錯覚を起こす不思議な構造である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの居室には家具やテレビ、仏壇などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されていた。入居者が他の入居者の居室を訪問しておしゃべりしている様子は微笑ましく、お隣さん付き合いを楽しんでいるようであった。		

※  は、重点項目。